

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平9-127465

(43)公開日 平成9年(1997)5月16日

(51)Int.Cl.<sup>6</sup>

G 0 2 C 3/02

識別記号

庁内整理番号

F I

G 0 2 C 3/02

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数5 F D (全 4 頁)

(21)出願番号 特願平7-303533

(22)出願日 平成7年(1995)10月28日

(71)出願人 393005934

岡本 剛

福井県福井市大丹生町第51号29番地

(72)発明者 岡本 剛

福井県福井市大丹生町第51号29番地 オカ

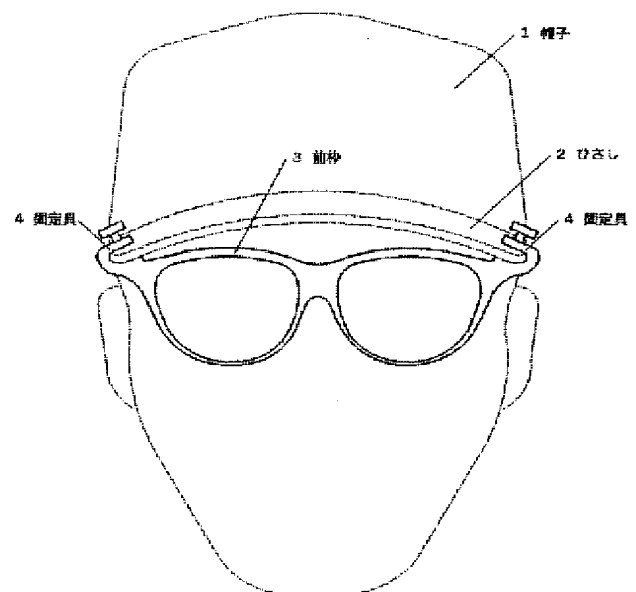
モト ツヨシ

(54)【発明の名称】 帽子取付式眼鏡

(57)【要約】

【目的】 眼鏡使用時の違和感や、鼻等に使用跡を付けたり、眼鏡と接触している所の肌が、汗やほこり等により炎症をおこす心配のない眼鏡を提供する。

【構成】 眼鏡の前枠(3)に、帽子(1)等のひさし(2)部分に固定する固定具(4)を設けた、帽子取付式眼鏡。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 眼鏡の前枠（3）に帽子（1）等のひさし（2）部分に固定する固定具（4）を設けた、帽子取付式眼鏡。

【請求項2】 前枠（13、23、33、43）と固定具（14、24、34、44）の間に、両者を連結する連結片（15、25、35、45）を設けた、請求項1の帽子取付式眼鏡。

【請求項3】 連結片（25、35、45）に前枠（23、33、43）を回転させる回転連結具（26、36、46）を設けた、請求項2の帽子取付式眼鏡。

【請求項4】 前枠（33）の両端に連結片（35）の長さを調節する調節具（37）を設けた、請求項2の帽子取付式眼鏡。

【請求項5】 連結片をひさしの両端にブリッジ状に渡す、ブリッジ形の連結片（45）にした、請求項2の帽子取付式眼鏡。

## 【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、眼鏡に関するものである。

【0002】

【従来の技術】従来、鼻と耳に掛ける眼鏡はあったが、帽子等（野球帽形の帽子、サンバイザー等）のひさしに取り付けるものはなかった。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】これは次のような欠点があった。

（イ）鼻や耳に眼鏡を掛けると違和感があったり、鼻等に跡が付き不快であった。

（ロ）眼鏡と接触している所の肌が、汗やほこり等により炎症をおこすことがあり不快であった。

本発明は、これらの欠点を除くためになされたものである。

【0004】

【課題を解決するための手段】眼鏡の前枠に、帽子等のひさしに固定する固定具を設けるようにする。また、前枠と固定具の間に両者を連結する連結片を設けてもよい。また、連結片に前枠を回転させる回転連結具を設けてもよい。また、前枠の両端に連結片の長さを調節する調節具を設けてもよい。また、連結片をひさしの両端にブリッジ状に渡す、ブリッジ形の連結片にしてもよい。本発明は、以上のような構成よりなる眼鏡である。

【0005】

【作用】眼鏡の前枠を固定具で帽子等のひさし部分に取り付け取外しする。また、連結片に回転連結具を設けた眼鏡の前枠を前方へ押し下ろしたり引くと、前枠が回転して前方へ上がり下がりする。また、前枠に調節具を設けた眼鏡の調節具で、前枠の位置を上下移動する。

【0006】

【実施例】以下、本発明の実施例について図面を参照して説明する。図1において、眼鏡の前枠（3）に、帽子（1）のひさし（2）部分に固定する固定具（4）を設けている。

【0007】図2に示される実施例では、前枠（13）と固定具（14）の間に両者を連結する連結片（15）を設けている。

【0008】図3、4に示される実施例では、連結片（25）に前枠（23）を回転させる回転連結具（26）を設けている。

【0009】図4に示される実施例では、回転連結具（26）で前枠（23）を回転して前方へ押し上げている。

【0010】図5に示される実施例では、連結片（35）に前枠（33）を回転させる回転連結具（36）を設け、前枠（33）の両端に連結片（35）の長さを調節する調節具（37）を設けている。なお、回転連結具と調節具が併用されているが、両者を個々に用いてもよい。

【0011】図6に示される実施例では、連結片をひさしの両端にブリッジ状に渡す、ブリッジ形の連結片（45）にし、その連結片に前枠（43）を回転させる回転連結具（46）を設けている。

【0012】

【発明の効果】本発明は以上のような構成でこれを使用すると、眼鏡の前枠を野球帽やサンバイザー等のひさし部分に取付けるので、鼻や耳で受ける必要がなくなる。これにより、眼鏡使用時に違和感を感じたり、鼻等に跡が付くこともない。そして、眼鏡と肌の接触がないので、汗やほこり等により炎症をおこす心配もなくなり快適である。特に発汗の多いスポーツやレジャー用に最適である。また、連結片に回転連結具を設けると、眼鏡が不必要なときに前枠を前方へ押し上げて置くことができる。また、前枠に調節具を設けると、前枠を上下移動させることができるので、好みの位置に調節できる。また、連結片をブリッジ形の連結片にすると、前枠の強度を軽減することができ軽量化できる。以上のように本発明は、極めて簡単で使用効果の高い物が提供できる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明実施例の正面図である。

【図2】前枠と固定具の間に連結片を設けた、本発明の他の実施例の正面図である。

【図3】連結片に回転連結具を設けた、本発明の他の実施例の正面図である。

【図4】連結片に回転連結具を設け、前枠を前方へ押し上げた、本発明の他の実施例の側面図である。

【図5】連結片に回転連結具を設け、前枠の両端に調節具を設けた、本発明の他の実施例の正面図である。

【図6】連結片をブリッジ形の連結片にし、その連結片に回転連結具を設けた、本発明の他の実施例の正面図で

3

4

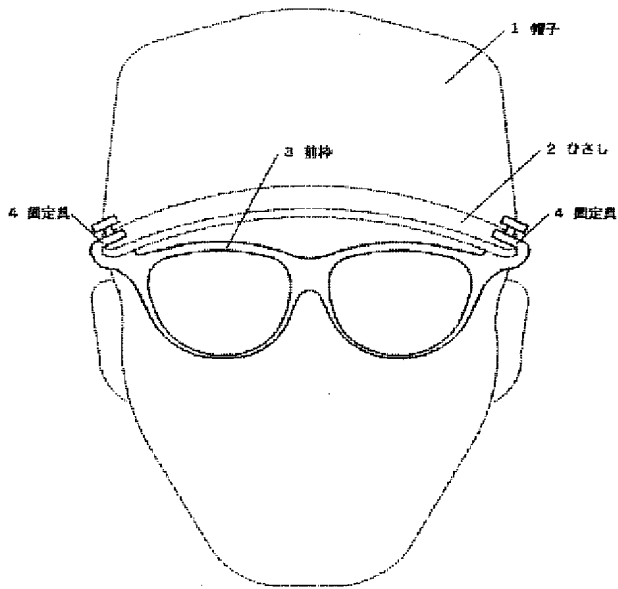
ある。

## 【符号の説明】

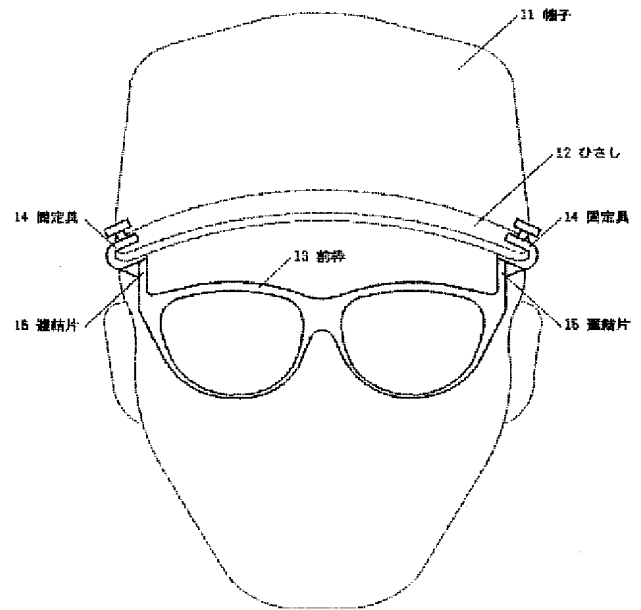
1, 11, 21, 31, 41 帽子  
 2, 12, 22, 32, 42 ひさし  
 3, 13, 23, 33, 43 前枠

4, 14, 24, 34, 44 固定具  
 15, 25, 35, 45 連結片  
 26, 36, 46 回転連結具  
 37 調節具

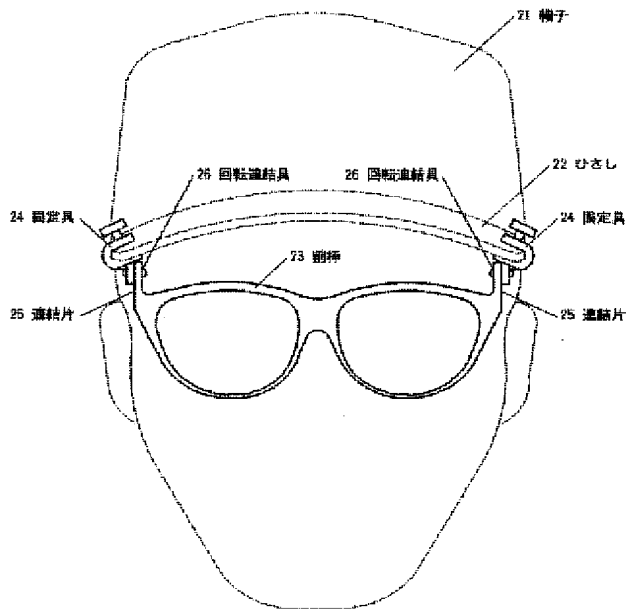
【図1】



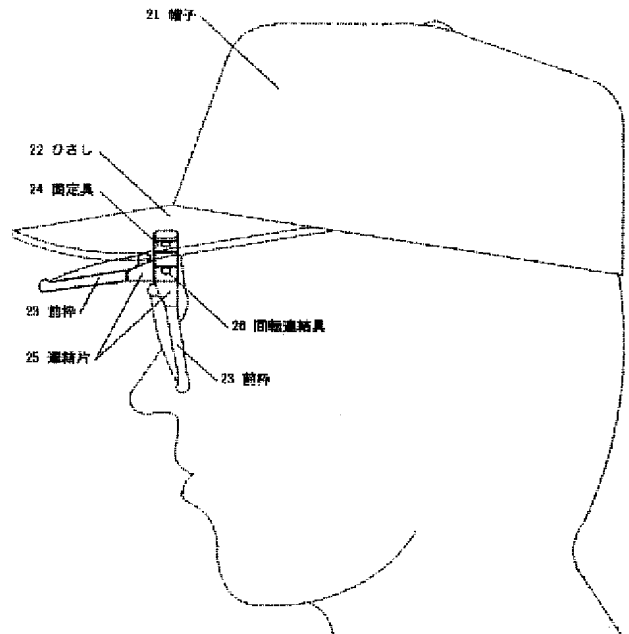
【図2】



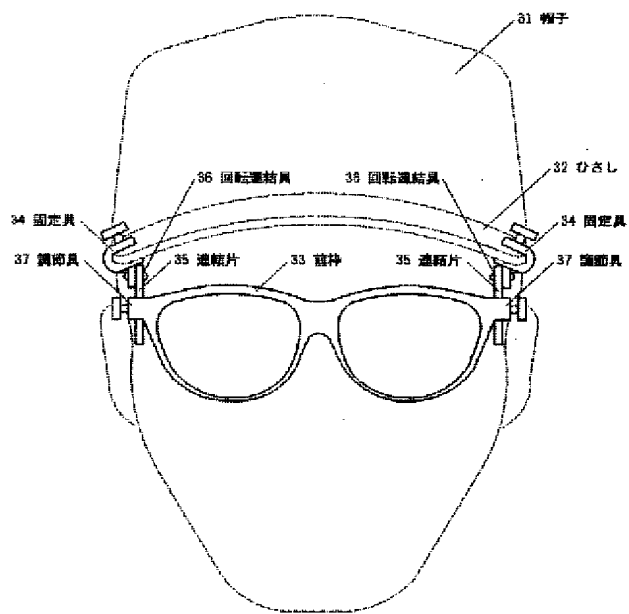
【図3】



【図4】



【図5】



【図6】

